

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年9月19日】第177号



富士農場へ

9月12日(火)には3年1組が、13日(水)には3年2組が、静岡県にある東京農業大学富士農場の校外学習に行きました。農場の皆様だけでなく、1組は農学部動物科学科准教授林田まき先生、2組は農場長で農学部動物科学科教授平野 貴先生にも学校出発時から同行していただき、専門家から、ウシ、ブタ、ニワトリなどがいる現場で、実物に触れながらの体験学習をすることができました。家畜としての動物についての理解を深めるだけでなく、子ブタと触れ合うなどの機会もあり、いのちについても考えを深めることができましたと思います。農場では牛乳をごちそうになり、また、ホロホロドリの卵をお土産にいただきました。ホロホロドリの卵は、事前授業で教えていただいたように、びっくりするくらい硬いのですが、いかがでしたか。

なお両日とも、交通事情により帰校が予定より大幅に遅れ、保護者の皆様にはご心配をおかけしました。次年度には行程についても検討し、さらにブラッシュアップした校外学習となるようにしてまいります。

田奈の田んぼへ

1年生と2年生は、9月15日(金)、横浜市青葉区にある「田奈の田んぼ」に稲刈りに行きました。1年生が田植えをした田んぼです。田んぼのオーナーの野路様に手入れをしていただき、見事に育っていました。指導は今年も農芸化学科の犬伏和之先生、加藤 拓先生、横田健治先生そして大学院生・大学生の皆さんが快く指導や支援をしてくださいました。1年生ははさみでの刈り取り、2年生はのこぎり鎌での刈り取りでしたが、2年生については鎌でうっかり膝や脛を切ってしまうようにと、森林科学科の大林宏也先生が作ってくださった木製の防具を利用して安全第一で行うことができました。

酷暑、また途中では雷が鳴ったり、雨が降ったりと、難しい気象の一日でしたが、多くの方々のご支援により、無事に稲刈りが終わりました。満足げな子どもたちから稲穂を見せてもらいましたが、ご家庭でも稲刈りのお話を聞いていただけますようお願いいたします。田奈の田んぼのお米は、野路さんをお願いしておだ掛け、乾燥、精米の上、本校の給食でも提供する予定です。

北海道オホーツクキャンパスへ

9月11日(月)から15日(木)まで、農大稲花小の5年生は、東京農業大学北海道オホーツクキャンパス宿泊学習に行きました。キャンパスの皆様に横断幕であたたかく迎えていただき、4つの体験学習プログラムで学びます。

北方圏農学科大久保倫子先生ほかによる「家畜舎見学とエミューの羽を利用したドリームキャッチャー作り」、海洋水産学科西野康人先生ほかによるオホーツク臨海研究センターと能取漁港における「プランクトンの採取と顕微鏡観察」、食香化粧化学科佐藤広顕先生ほかによる科学実験室での

「ハッカのエッセンシャルオイルの調整と果物の調香体験」そして自然資源経営学科の菅原 優先生ほかによる濤沸湖水鳥・湿地センターにおける「湖の生き物の多様性と環境の経済的価値を学ぶ体験」と、それぞれの学科の特色を活かしたプログラムです。午前と午後、2日間にわたって、子どもたちは先生方からご指導をいただき、それぞれの興味関心を大きく引き出させていただきました。また、新井一弘事務次長、宿泊した網走湖荘でオホーツクの暮らしについてお話をくださった大塚寛事務部長、東京農業大学第一高等学校中等部と同宿となったのを機会に子どもたちに楽しく学ぶことの大切さについてお話をくださった教頭紙谷知行先生、毎日の昼食でお世話になった学食(生協食堂)の皆様にも感謝申し上げます。

そして最終日、修了式を開いていただき、西野学部長から修了証と五角形の合格鉛筆をプレゼントされた子どもたち、なんとそこに学校法人東京農業大学理事長江口文陽先生のサプライズ登場です。江口先生からは励ましの言葉とともに記念のSDGsバッジをプレゼントしていただきました。最後は、北海道オホーツクキャンパス応援団による演奏と大根おどりです。子どもたちは目を丸くしていました。

このほか初日には流氷館、最終日には最寄貝塚の見学なども行い、キャンパス正門に立てられた大きな立て看板に見送られて、無事に東京に戻ってきました。お世話になったたくさんの方々に感謝するとともに、子どもたちを送り出し、また迎えてくださった保護者の皆様にも御礼申し上げます。そして何より、子どもたちがこの学びを心の中にしっかり留め、成長の糧とすることを願っています。



東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子